

枚方淀川探鳥会 2025年12月

2025年(令和7年)12月7日(日) 9:00~12:00
日本野鳥の会大阪支部
前田初雄、甲田正二、西脇淳浩、香月清宏
松井正夫、新名泰博、平 軍二(☎090-6901-1425)

今日12/7は「淀川河川公園枚方地区」を中心に、「淀川寛平マラソン」が開催されています。ここ数年探鳥会開催日とバッティングしていなかったので、寛平マラソン開催日にノーマークでした。
今日は、探鳥会時に確認しながら、若干のコース変更も止むなしと思われます。

I 今月の鳥はスズガモ

①スズガモ カモ目カモ科スズガモ属

L 45cm 漢字名 鈴鴨

学名 *Aythya affinis* 英名 *Lesser Scaup*

11月探鳥会でスズガモが出ました。

枚方淀川探鳥会のチェックリストでは、昨年10月に5羽観察されているが、最近13年間7回のみであり、2年に1回程度しか観察していない稀な冬鳥である。

なお、スズガモの雌は写真のように嘴基部の白色部で確認するが、同属のキンクロハジロにも嘴基部に白斑が出る個体があるので、要注意である。



スズガモ雌 2025.11.02(平)

②大阪府のスズガモ →

(大阪府鳥類目録 2016)

大阪府では大阪湾岸でよく観察される。

鳥類目録によると、ガンカモ調査時の結果と思われる、下記の記録が記載されている。

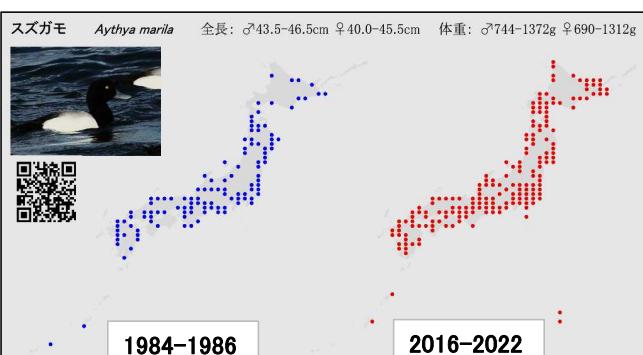
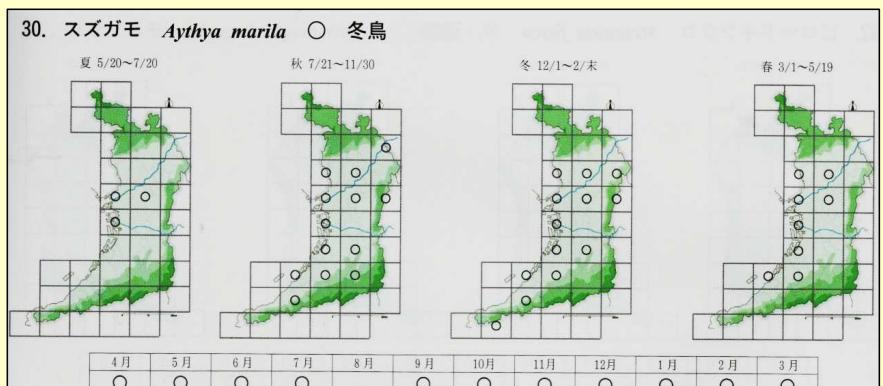
2006年1月 夢洲 2,362羽

2007年1月 泉大津市 1,032羽

2009年1月 神崎川河口 2,736羽

2016年1月 岸和田市 1,500+羽

海の鳥であるため、枚方淀川など内陸部では観察されても、個体数は少ない。



← ③スズガモ 日本での越冬状況 全国越冬分布調査報告2016~2022年 (バードリサーチ・日本野鳥の会 2023年)

冬鳥として全国に渡来し、内湾では大きな群れで越冬する。1980年代と比較して2010年代は、北海道や関東地方では内陸部、西日本では主に沿岸部で分布が拡大していた。

環境省の「ガンカモ類の生息調査」での越冬個体数は、1970年代後半以降、10~27万羽で変動している。



④世界のスズガモ分布図

真木・大西(日本の野鳥590) 2000年平凡社

日本に冬鳥として来ているスズガモの繁殖地が北極圏にあることを初めて意識した。

スズガモの繁殖図を見て、他の鳥の分布図を見直した所、マガ・コハクチョウなどの繁殖地も北極圏でした。

スズガモの越冬地は千島列島～日本列島、そして台湾及び中国南部などの沿岸部でした。

II 探鳥会観察チェックリスト(第8版)

観察回数は、平が担当した2012年1月～先月2024年12月までの13年間での観察回数です。

100回以上は留鳥、50回前後は冬鳥or夏鳥、10回以下は珍鳥?

第8版	科名	鳥名	観察回数	2024				2025				第8版	科名	鳥名	観察回数	2024				第8版			
				9	10	11	12	9	10	11	12					9	10	11	12				
				1	6	3	1	7	5	2	7					1	6	3	2				
12	カモ	マガモ	1									12	シギ	チュウシャクシギ	2						144		
		ツクシガモ	3					雨				18		トゥネン	1				雨		163		
		トモエガモ	2			3		天	○			23		ハマシギ	1				天		165		
		シマアジ	1					中				24		タシギ	5				中		183		
		ハシビロガモ	9					止				26		インシギ	89	○	3	1	2	2	止○	188	
		オカヨシガモ	52			25						27		クサシギ	3							190	
		ヨシガモ	21			6						28		キアシシギ	2							192	
		ヒドリガモ	48		3	14						29		アオアシシギ	1							198	
		アメリカヒドリ	6									30	カモメ	ユリカモメ	22							213	
		カルガモ	97	○	1	39			○			32		ウミネコ	3							221	
		マガモ	58			15			○			33		カモメ	3							222	
		オナガガモ	8									34		セグロカモメ	20							226	
		コガモ	62		4	1						35		コアジサシ	9							233	
		ホシハジロ	46		3	49						39		アビ	シロエリオオハム	1							270
		アカハジロ	6			1						40		ウ	カワウ	122	○	47	12	7	57	○	315
		メジロガモ	1			1						41		トキ	ヘラサギ	1							319
		キンクロハジロ	47			106			○			43		クロツラヘラサギ	1							320	
		スズガモ	7			5		○				44	サギ	ゴイサギ	10							328	
56		ミコアイサ	2			1						56		ササゴイ	18							330	
		カワアイサ	50		3	6						58		アマサギ	3							332	
		ウミアイサ	3									59		アオサギ	124	○	4	8	1	4	○	333	
		キジ	キジ	51	1	1	1	○				64		ダイサギ	120	○	5	5	3	3	○	335	
		アマツバメ	2									69		コサギ	111	○	6	5	3	8	○	337	
80	カッコワ	ホトトギス	2									80	ミサゴ	ミサゴ	75	1	1	1	4		○	343	
		ツツドリ	2									82		ハチクマ	2							344	
83		カッコウ	1									83		ハイタカ	36			2				353	
		キジバト	123	○	4	2	1	4	○			89		オオタカ	27							354	
		クイナ	12									96		チュウヒ	2							355	
		バン	23									100		ハイロチュウヒ	1							356	
		オオバン	55		4	92		○				101		トビ	102	○	3	2	4	1	○	359	
117	カイツブリ	ヒクイナ	7									103		サシバ	1							363	
		カイツブリ	51		5	5		○				117		ノスリ	37		1					366	
		カンムリカイツブリ	64		3	23		○				119		フクロウ	オオコノハズク	1							371
		ハジロカイツブリ	4									121		カワセミ	カワセミ	106	○	1	3	1	2	○	384
		タゲリ	1									121		アリスイ	10			1				389	
121	チドリ	ケリ	27									128	コゲラ	コゲラ	102	2	1	2	1			390	
		イカルチドリ	9									134		アカゲラ	6							394	
		コチドリ	32									135		ハヤブナ	チョウゲンボウ	57		1		○		402	
		シロチドリ	4									136		ハヤブサ	31					○		407	

III 先月(11/2)探鳥会報告

スタート地点で関西医大病院の屋上に止まっていたチョウゲンボウ、

淀川堤防側へ回ると関医タワーの文字盤に止まっていたハヤブサと、幸先

よくスタートした。河川敷の草原ではハクセキレイの群、中に冬鳥のタヒバリもいた。ホオジロ・モズ・カワラヒワは木の上に、ヨシなどの草むらからはウグイスの「ホケキヨ」、そしてアオジの声もした。

淀川本流ではアオサギ・ダイサギ・コサギ・オオバン・カワセミ、そして上空をミサゴが飛んだ。冬鳥はカンムリカイツブリ、更にキンクロハジロとともにいたスズガモを見ることができた。天野川・黒田川の川床にはセグロセキレイが多数おり、今月の鳥として資料に入れたイソシギもゆっくり見ることができた。冬の小鳥は天野川沿いのシナサワグルミの木にジョウビタキ、オオタカの森のムクノキの木にツグミを確認した。**今月の「トリ」はキジ**、声を出して飛ぶ姿を見た後、磯島グランド南側の堤防のナンキンハゼに止まっている姿を全員でゆっくり観察できたことから、気持ち良く終えることができた。

第8版	科名	鳥名	観察回数	2024				2025				第8版	科名	鳥名	観察回数	2024				2025				第8版
				9	10	11	12	9	10	11	12					9	10	11	12	9	10	11	12	
411	サンショウクワイ	サンショウクワイ	1									411	550	ヒタキ(続)	キピタキ	16								550
419	カササギヒタキ	サンコウチヨウ	1						雨			419	554		オジロヒタキ	1					雨			554
425	モズ	モズ	114	O	13	20	6	1	天	O		425	556		ルリビタキ	1					天			556
435	カラス	ハシボソガラス	125	O	19	8	35	6	中	O		435	561		ジョウビタキ	60		9	5	中	O		561	
436		ハシブトガラス	118	O	3	3	3	止	O			436	564		インヒヨドリ	39	O	1	3	1	2	止	O	564
440	シジュウカラ	ヒガラ	1									440	568		ノビタキ	13								568
442		ヤマガラ	7									442	575	スズメ	125	O	30	23	止	30	O		575	
447		シジュウカラ	116	O	25	2	3	O				447	584	セキレイ	42	3	2	1		O			584	
448	ツリスガラ	ツリスガラ	1									448	585		ハクセキレイ	116	O	4	21	40		O		585
450	ヒバリ	ヒバリ	68	O	1	1						450	586		セグロセキレイ	109	2	8	3	3	O			586
456	ヒコドリ	ヒヨドリ	126	O	44	254	止	2	O			456	595		タヒバリ	35		34	9	O			595	
458	ツバメ	ショウドウツバメ	6									458	597	アトリ	アトリ	29								597
461		ツバメ	64	O	2		5					461	598		シメ	42					O			598
462		イワツバメ	54	O		30		O				462	600		イカル	17								600
463		コシアカツバメ	23	O	8		2	O				463	606		ベニマシコ	44								606
464	ウグイス	ウグイス	119		2	6	5	O				464	608		カワラヒワ	114	8	89	6	2	O			608
467	エナガ	エナガ	93		12	10						467	613		マヒワ	6								613
476	ムシクイ	センダイムシクイ	7									476	618	ホオジロ	ホオジロ	119	O	3	3	6	1	O		618
479		エゾクシクイ	1									479	622		ホオアカ	6								622
481		メボソムシクイ	5									481	625		カシラダカ	23								625
482		オオムシクイ	5									482	626		ミヤマホオジロ	1								626
484	ヨシキリ	オオヨシキリ	33									484	633		アオジ	70		5		O				633
485	ヨシキリ	コヨシキリ										485	637		オオジュリン	17								637
497	セッカ	セッカ	32									497	9	キジ	コジケイ	13								9
501	メジロ	メジロ	103	O	24	22	8	4				501	11	ハト	カワラバト(ドバト)	121	O	3	14	5	O			11
502	キクイタダキ	キクイタダキ	8									502	30	ムクドリ	ハツカチヨウ	1								30
507	ムクドリ	ムクドリ	113	O	33	35	21	28	O			507			カツコウSP	5								
509		コムクドリ	5									509			アイガモ	3								
512		ホシムクドリ	2									512			メボソムシクイSP	7		1						
525	ツグミ	マミチャジナイ	1									525			ヒタキSP	3								
526		シロハラ	54			1						526			種数合計(自動計算)	25	36	39	50	24	42			
527		アカハラ	2									527			個体数合計(自動計算)	647	668	644	175					
531		ツグミ	60			1		O				531			探鳥会参加者数	9	30	30	28	12	28			
532		ハチジョウツグミ										532												
533	ヒタキ	エゾビタキ	9		12							533												
534		サメビタキ	2		2							534												
537		コサメビタキ	18		6							537												
539		オオルリ	4									539												
543		ノゴマ	1									543												



お正月の探鳥会、初夢のタ力が出てくるといいのですが。
今月と同じように、大阪支部HPからホームズ様式からお申し込みください。

IV 次回は1月4日(日)
午前9時 ラポールひらかた前

V 野鳥通りの変化（2023年11月樹木伐採経過）

先月資料再録

今回写真で示した場所は、冬はツグミ・シロハラだけではなくアトリ・マヒワも、春・秋はオオルリ・キビタキ・コサメビタキ・ムシクイなどの渡り鳥が観察できた上、2023年にはオオタカも繁殖した里山レベルの探鳥地で「野鳥通り」と略称されるほど、山野の鳥が観察できる樹林でした。このように木々が大きくなり樹林となつたのは、これまで予算が出なかつたことで、30年間放置されていました。昨今の気象状況の変化で洪水が予想されること（実際に平が担当して15年間に、2回の冠水を経験している）、洪水した場合、河川敷の木が倒れて下流の橋桁を損傷することもあり、今回予算が出たことで、オオタカ繁殖個所を残し全伐されたものです。

